

# 飲水思源

自動車販売のリーダー

5

## 菊池武三郎伝

昭和7年1月3日、奈良の町は初詣の人々にぎわっていた。奈良自動車は、従業員と車両を総動員して参拝者の輸送に当たっていた。そんな折、奈良市西御門町の本社で総指揮を執っていた菊池武三郎の元に、まったく予期せぬ事態が報告された。奈良電鉄・尼ヶ辻の無人踏切で「銀バス」が電車と衝突し、乗客が亡くなったという知らせがあった。

バスには伊勢、橿原神宮、法隆寺を巡って奈良に入る途中だった、宮城県横濱海上保険仙台支店の16人が乗車していた。電車の乗務員、乗客にもけが人が発生する大事故。当時としては最大のバス事故となった。現場へ急いで駆け付けた武三郎が目にした光景は、まさに惨状。地元紙の奈良新聞が事故を伝えた記事の見出しは「乗客満載の銀バス 木端微塵

### 銀バスの大事故

銀バス大事故を報じる当時の新聞―昭和7年



# 心に刻んだ乗客の死

に粉碎さる 大軌旧二条踏切で電車と衝突 即死 十四名の大惨事」というものだった。

おめでたい正月の奈良は、二転修羅場となった。

重大事故を引き起こした責任者として武三郎は冷静になろうと努めたが、何から手を付ければいいのか分からなかった。しかし、やらなければならぬ

も、人には東北旅行と言いながら、夏の盆時期には仙台を訪れて事故の犠牲者の墓参を続けた。事故の対応は終わっても、会社の経営への影響は計り知れないと思われた。また7年という年は、昭和前期に起きるさまざまな歴史的事件の前ぶれのような年だった。前年には満州事変が勃発。翌7年には満州の日本軍が錦洲を占領し、山海関に進撃して上海事変が起きる。不安、動揺による物価上昇で、自動車の部品やカソリンも値上がりが続いた。11つづく、毎週金曜

日掲載